

American Rock Lyric Landscape



—アメリカン・ロック・リリック・ランドスケープ—

ロックの歌詞から見えてくるアメリカの風景

文=ジョージ・カックル

イラストレーション=花井祐介

第37回

リッキー・リー・ジョーンズ 「ダニーの店で」

ちょっとエッチな女性の飲み屋での一夜

RICKIE LEE JONES



Rickie Lee Jones
"Rickie Lee Jones"
Warner Bros. ●BSK3296 [1979]
➡ワーナー ©WPCR14508

all day

最初は店の紹介から始まる。《ダニース・オールスター・ジョイントの地下には、騒々しい音を出すジュークボックスがある》。'joint' という言葉で、ちょっと柄が悪い店のイメージを表わしている。《警官はいい人たち、みんな一日中、奥に引込んでいるわ》。'vice' とは博打と売春を取り締まる警官のこと。彼らはよく私服で店に入りするが、あまり職務に忠実でないのか、大目に見てくれるのか、つまりはめったに逮捕しない人たちだと歌っている。

But when the nighttime comes,
hey-hey, There's this cat down there
that makes a bad kinda soup

《でも夜になると、地下には美味しいスープを作る猫がいるの》。'cat' は《男》で、'bad' は《すごい》という意味。いい男がたむろしている、といった感じだろう。

I come around struttin' my luck in
my shoop coupe
Cecil gives me coffee
And he won't never take my coin

Joe, I just want some o.j.

《シースルは肉切り包丁を手に取り、そいつに向けて振り回す》。この 'jail' は牢屋ではなく、保護用の鉄柵のこと。《その若い男がシースルに向かって言う、"なあ、あなた、俺は金がないけどオレんじ・シースル (o.j.) が欲しいんだ"。'dough' はパン生地のことだが、スラングでは《お金》。'Joe' は《お前》という意味だ。

I said, "Don't look at me"
(cuz he was lookin' my way)
Cecil wink upon him some juice and
some green
And the kid walks over and puts the
quarter in the pin ball machine

《あたしは言った、こつちを見ないでよ》。男に、金が欲しいという顔をされたようだ。《シースルはウィンクしながら、彼にシースルと金をあげた》。'green' も《お金》のこと。どうやら、シースルと若者は顔なじみのようで、シースルは面倒見のいい男のようだ。《そしてその若者はピンボールに25セントを入れてこう言う》。

がないところもあるが、様々な言葉遊びがちりばめられているんだ。その舞台は LA にある飲み屋という設定で、そこでの、ある一夜の人間模様が描かれている。

Downstairs at Danny's All-Star Joint
They got a juke box that goes doyt-
doyt
The vice is nice, they stay in the back

お金を手に入れたのに、あなたは私がシントダウンしているみたいに振る舞うのね》。

He knows all the under-riders on the
boulevard,
They got to barefoot cruise when it's
forty-weight hard
They look particularly dead-beat,
Permanently pale

こつちから格好いい言葉が並ぶ。《彼 (シースル) は、大通りのシヤコタン乗りをすべて知っているのよ》。'under-riders' は車高を低く改造した車のこと。シースルはちょっとこした顔役のようだ。'barefoot cruise' は、裸足を車を乗り回すこと。'forty-weight' はアメリカで人気の車用オイルの名前。それが《堅い》というのの意味がよく分からないが、ただの言葉遊びなんだろう。《彼らは普通以上になまけ者に見える、いつも青白いの》。夜にしか活動しなから日に当たらなら、とらうわけだ。

Cecile pick up his butcher knife
Waves it at the jail
The kid say, "I ain't got no dough,

この連載を始めた時、1曲目に選んだのがリッキー・リー・ジョーンズの「ザ・ラスト・チャンス・テキサコ」だった。その時から、同じアルバムの中のこの曲について書きたいと思っていた。あれから3年、もうそろそろ紹介してもらいかなと思ったんだ。

この曲ではリッキーが、言葉と音のイメージや歌い方で、色っぽくて少し安っぽい女を巧みに表現している。英語的には意味

I say, "I got thirty dollars in my
pocket! Whatchoo doin'?"

こつちから、リッキーが店に入ってくる。《あたしは幸運を見せびらかしながら、ピカピカのクーペでやって来る》。'shoop coupe' は韻を踏んだだけだと思うが、前述のようなイメージなんだろう。続いて店の中。《シースル、コーヒーを頂戴。でも、彼はあたしのコーヒー代を受け取らない》。こつちで彼女は言う、《あたしのポケットには30ドル入っているのに、何やっているの》。この店のシースルは、さつとらうやツなんだろう。常日頃はお金に困っているリッキーから、代金を受け取らうとしなら

I holler, "Come on, Cecil, take a
dollar!
Come on, Cecil, take a ten!
I've finally geared up into a whole
buncha big ones,
And you're actin' like I'm down-shift-
in!"

《あたしは叫ぶ。ねえシースル、1ドル受け取って。10ドル受け取ってよ。やっと

And he says, "Come on, Cec, gimme a dollar,
Come on, Cecil, gimme five,
I'm in a half-way house on a one-way street,
And I'm a quarter past left alive!"

《なぬシースル、1ドルくれよ、5ドルくれよ。俺は、ハーフウェイ・ハウスにいて、もう後戻りできないんだ。人生の4分の1はどきどき過ぎてしまっただ。この 'halfway house' は、犯罪を起した人が社会復帰するために住む施設。'one-way street' は、一方通行、そして、もう戻れない道、という意味でもある。

He can talk about your people in a wonderful way
He can talk about your people 'til your hair turns grey

リックキーが語りかける。《シースルは、あなたの知り合いの話を面白おかしく聞かせてくれる。あなたの髪の毛が灰色になるまで》。つまり、いつまでも話していられるという意味。《ごの、あなた》は、先



ほどの若者たち。 Your sister's into mustard
She loves to walk the pub
She likes the pickles and the relish
She never gets enough
A Hershey milkshake
Steamin' on a stick
For a Carte Blanche sandwich
Oh lettuce get thick..

《ごごからリックキーの言葉遊びだ。セックスに歌い、エッチなイメージを漂わせる。《あなたの姉さんはカラシ中毒。彼女はパンで歩き回るのが好き。ピクルスと菜味が好きで、いくら食べても足りないの。クシを差して湯気が出ているハーシーのミルクシエイク、カール・ブランシュのサンドウィッチ、ああ、レタスがドロドロになっちゃった。》。意味はないけど、食べ物を使っごごを表現している。'Card Blanche' には、何をやっていいという意味もあるんだ。

It's not because I'm dirty,
It's not because I'm clean,
It's not because I kiss the boys

behind the magazine

《あたしがいやらしいからじゃない。潔癖だからじゃない。あたしが雑誌で隠れてあの子たちにキスするせいでじゃないわよ》。

Hey boys? How 'bout a fight?
Cuz here comes Rickie with the girdle on tight

《そこにいる男の子たち、喧嘩する。だってリックキーがきついガードルを着けてやって来たんだから》。つまり、私の取り合いはしないの？と挑発してるんだ。

And if she don't know your name
She knows what you got
From your matzo balls
To the chicken-in-the-pot

《ごごでは自分のことを《彼女》と呼んでいる。《彼女はあなたの名前なんか知らなくて、何を持ってるか分かっているわ。あなたのマツォボールからポットに入っている鶏までね》。この 'matzo ball' はユダヤ料理のスープに入れる団子。アメリカのストラングではキンタマだ。そしてポ

ットの鶏は、ストラングでメニス。だから彼女は男たちをよく知ってるわけだ。

(chorus) Downstairs at Danny's
All-Star Joint
They got a juke box that goes doyt-
doyt
A finger-snappin' deluxe
Make your be-bop bap
And your R&B hep-scat

《ダニース・オールスター・ジョイントの地下では、ジュークスボックスが騒々しく鳴り、指を鳴らす音が響き渡る》。最後の2行は言葉の遊びだが、セクシーな情景を連想させる。

You can't break the rules until you know how to play the game,
But if you just want to have a little fun
You can mention my name

リックキーはリスナーに助言する。《ゲームの遊び方がちゃんと分かっているなければルールを壊せない。でも少しだけ遊びたいなら、あたしの名前を言ってもいいわ》。

Keep your feet in the street,
Your toes in the lawn,
But keep your Business in your pocket,
That's where it belongs

《足がちゃんと地面につけて、爪先で芝生を踏みなす》。つまり、しっかり冷静に考えなると言っている。《だけど、あなたの 'ビジネス' はポケットに入れておきなさい。そこが相応しい居場所なんだから》。この 'business' とは、メニスのことだ。

Come on, Cecil, take a dollar
Come on, Cecil, take a tip
Do yourself a favor
If she offers it - take it!
But honey, don't give it away if he don't appreciate it

《ねえシースル、チップを受け取って》。最後にリックキーはセックスに対して助言する。最初は男性に《もし彼女がくれるなら、それを取るのよ！》。そして女性には《ごご。でもハニー、彼がちゃんと感謝しないだったら、あげちゃダメよ》。